

情報「収集」に加え「提供」も

第2回

旅に出かける前には何が必要か

ある日父から「イタリアへ行く」と誘われました。車椅子の父の場合、海外旅行は国内の比ではなく、利用する飛行機・ホテル・観光地などの情報をしっかり収集し確認しなければいけません。同様にこちらの情報提供、つまり車椅子や体の状態の申告に不備があると、せっかくの旅行が台無しになります。健康な体であれば全く問題にならないことが、体が不自由な場合はバリアとなるからです。

特にイタリアは世界的に人気の、歴史が色濃く残る観光地です。言い換えれば、バリアフリーとは程遠く「超バリアフル」な街です。いいホテルほど古い建物をリノベーションしエレベーターは全て後付け。段差も少なからず残っています。また一歩外に出ると石畳が続ぎ、車椅子

の前輪がその溝にかみ、父が前のめりに倒れてしまう危険があります。僕は車椅子の前輪を常に浮かせ後輪のみ重心をかけた車椅子を操作し続けました。

その一方で、感動したこともあります。水の都ヴェネチアでは、ゴンドラに揺られながらの観光地巡りは半ば諦めていました。車椅子のまま乗れるゴンドラなんて事前に調べても情報は出てきませんでした。しかし、なんとリフト付ゴンドラが1隻

だけあったのです。おかげでヴェネチア遊覧を満喫することができました。

今回お伝えしたいことは、旅先の情報はしっかり事前収集し、同様に車椅子や体の状態も関係各所へ事前によりっかり情報提供することを怠らないということです。

旅行の手配はできれば海外に強い旅行会社を選び、回を重ねるときは同じ旅行会社に手配を依頼したほうがいいでしょう。手配実績があれば、スムーズに動いてくれます。

また、ネット予約はお勧めしません。それは情報収集はできても、情報提供が難しいからです。体が不自由な方の旅行は事前の情報収集以上に情報提供が重要と言えます。ここに手を抜かなければ、すばらしい景色や人との出会いがさらに思い出深いものになると確信します。

ハンディネットワーク
インターナショナル（HNI）
代表取締役 春山哲朗



進行性筋ジストロフィーにより首から下の運動機能を全廃してなおビジネスマンとして第一線で活躍した春山満を父に持つ。ハワイ留学後、ネバダ州立大学ラスベガス校ホテルマネジメント学科へ編入。2007年HNI入社。取締役を経て、2014年父の急逝にもない、代表取締役就任。翌年、新事業「グッドタイムトラベル」開始。要介護になってもあきらめずに家族旅行を続けていたきたい思いを実現。

いくつになっても
Let's Travel



▲ヴェネチアのゴンドラは車椅子でも楽しめる